

特集の意図

重篤な神経症候を引き起こす感染症の流行は社会的な問題となり得、近年のジカ熱のように原因となるウイルスの特定やワクチン、治療法の開発が求められる。本特集では近年のトピックであるエンテロウイルス、ジカウイルス、C型肝炎ウイルスなどによって引き起こされる、まさに「知っておきたい」神経感染症について、病態や治療法、現状の課題を概説してもらった。

特集の構成

1. 急性弛緩性脊髄炎（吉良龍太郎） 急性弛緩性脊髄炎（AFM）は、脊髄前角や灰白質に MRI 異常を伴い、ポリオ様の麻痺を呈する新しい疾患概念である。2014～2015 年頃、エンテロウイルス D68（EV-D68）のアウトブレイクと同時に多発したことから、EV-D68 が AFM の原因として疑われているものの、まだその証明には至っていない。各国における疫学調査をレビューしたうえで、AFM の臨床的特徴や病原体として示唆される複数のウイルスについて知っておきたいポイントをまとめた。

2. ジカウイルスとギラン・バレー症候群（小池春樹） 海外への渡航者が帰国後に発症したことで日本でも話題となったジカ熱は、重篤な感染症とは言えないものの、中枢および末梢神経障害をきたす患者の報告が相次いでいる。特にギラン・バレー症候群（GBS）の合併が注目されており、ジカウイルスに関連する GBS は急性炎症性脱髄性多発ニューロパチーなど脱髄型の病型を呈することが多く、治療に際しては GBS の治療法に準じて免疫療法が行われる。

3. エンテロウイルスによる手足口病と脳炎、髄膜炎（藤本嗣人） 夏に小児を中心に流行する手足口病は、エンテロウイルス A71 型（EV-A71）などのウイルスが主要な病原体とされる。これらのウイルスは時に髄膜炎や脳炎を引き起こすが、日本では重症化例が少なく、ワクチンの開発や治療法の確立には至っていない。手足口病を中心に、エンテロウイルスとの関連についてまとめる。また、先に多くのアウトブレイクを経験した諸外国の重症度分類やワクチンの開発についても紹介する。

4. C型肝炎ウイルス関連クリオグロブリン血管炎（南 康範、他） 日本では C型肝炎ウイルス（HCV）の感染者の約 4 割がクリオグロブリン血症を認めると報告され、日常診療でも C型肝炎患者に接する機会は少なくない。本論ではこのクリオグロブリン血管炎について病態や診断、治療について概説する。治療法には抗ウイルス療法、B 細胞抑制療法、非特異的免疫抑制療法、血漿交換療法がある。これらの治療法に関して理解すべき副作用についても紹介する。